

八月十五日

昨夜も月下美人が大きく四輪咲いた。毎年、この時期に強い香りを漂わせるのが常だが、無数の戦没者達の意志が乗り移っているのだろうか。そんな気がする程の強く、哀しい、束の間の香りである。お盆の町の風景は人影も少なく、町の姿が仏壇の内の風景に視えてしまうのも、毎年の事である。世界は膨大極まる無数の死者達によって構築されている。生者達はその蓄積の表面にあやうく浮遊している存在でもあろう。丁度、地球が極く極く薄いオゾン層で守られている様なものか。

十一時五〇分台北の李祖原より、MK及び北京モルガンのバツクデータ送付されてくる。ひろしまハウス展Nひろしまの報告を聞く。ブロンペンのレンガ積みツアーの参加者達や研究室のOB、OG達も力を寄せてくれたようで、ありがとう。この場を借りて御礼申し上げる。

十三時浜野総合研究所高さん来室。十五時迄打合わせ。後、設計製図採点。低調であった。しかし学生を責めるわけにはいかぬ。建築の将来に希望を示せない限り、この状況は続くであろう。それは我々の義務だ。北京プロジェクトでその糸口を提示できればと的を絞りつつあるのだが、簡単な事では無い。仕事自体のスタイルを拡張するのを試みなければならぬ。十九時過修了。昼飯を喰べ忘れて空腹の極み。二十一時過世田谷村に戻り、新聞熟読。新聞オヤジである。

八月十六日

北京プロジェクトは建築的プロジェクトとしては高度に政治的な意味合いを持たせなければ価値は極めて低くなってしまふ。中国大陸の中心でオリエンタルの概念を鮮烈に出す。かつての日本の近代化のキーワードだった和魂洋才の焼き直しとしての東魂西技では、歴史のただの繰り返し再生産に過ぎない。その先に行かねばならぬ。

韓国の参加が必要だろうな。

八月一七日

十時研究室。十一時過プロジェクトの全体の把握を試みる。架空のステーションと、それを始発点とする幾つかの路線を明示する為のミーティング。今日からCY・Leeは香港でK氏とミーティング。十四時半迄ミーティング。仲々真意が伝わり難い。そりゃそうだろう。私だって全部がつかみ切れていないのだから。しかし、彼等に伝えられるようにする努力は続けるつもりだ。

八月十八日

早朝から、仕事にはげむ。研究室にFAXを送り、昨日の会議の続きの、たたき台をつくる。